
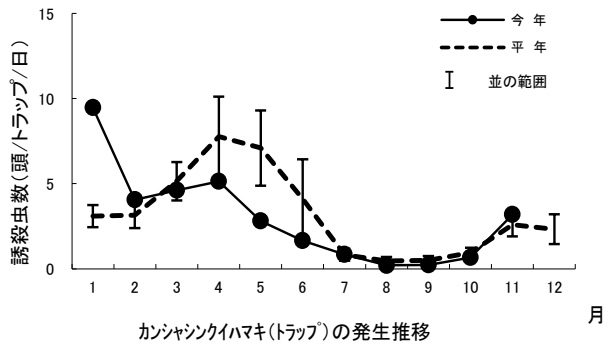
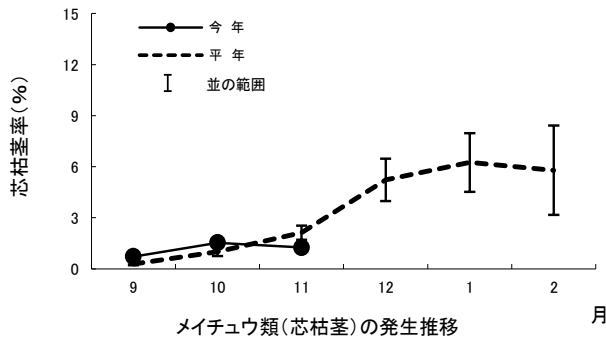


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ)		
11月の発生量(現況)	やや少		
12月の増減傾向	↗		

増減傾向の根拠	芯枯莖率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
---------	-------------------------------------


発生量の根拠(調査結果)



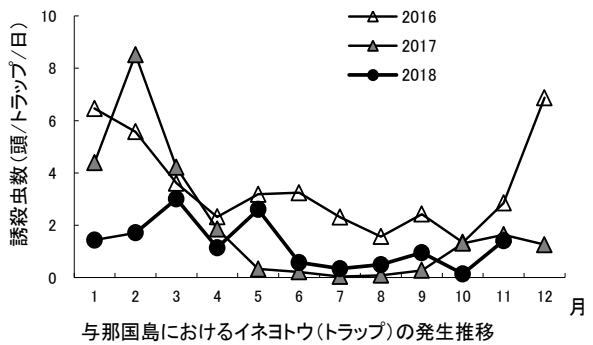
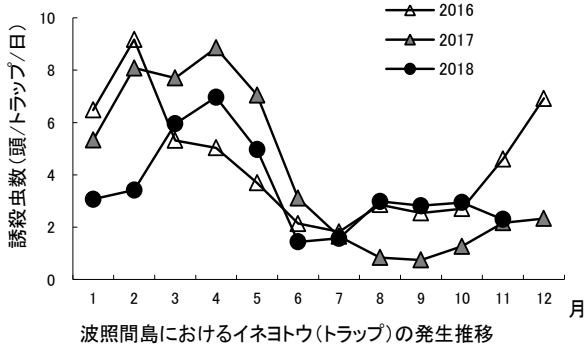
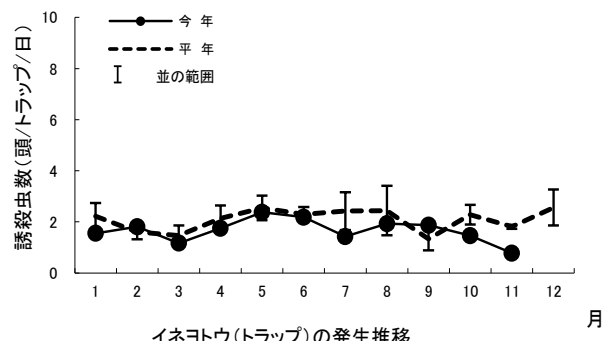
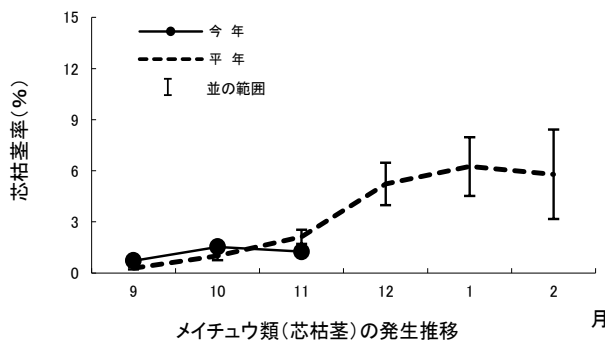
- ・ 調査作型：夏植、調査地域：石垣市
- ・ 芯枯莖率(%)：1.3(前年1.3、平年2.1、判定「やや少」)
- ・ 芯枯莖内幼虫の割合(%)：イネヨトウ69.2%、カンシャシンクイハマキ30.8%
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日)：3.2(前年1.5、平年2.6、判定「並」)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類)：中発生(波照間島)、少発生(与那国島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
11月の発生量(現況)		やや少	
12月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		芯枯茎率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠(調査結果)



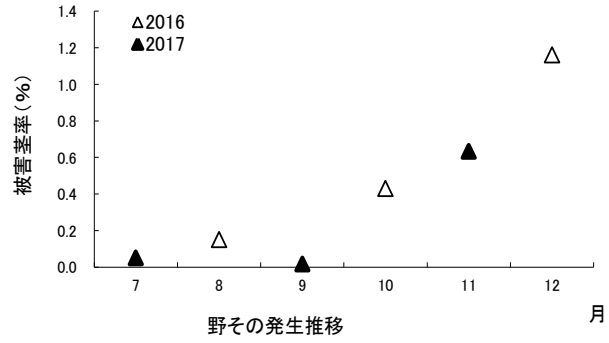
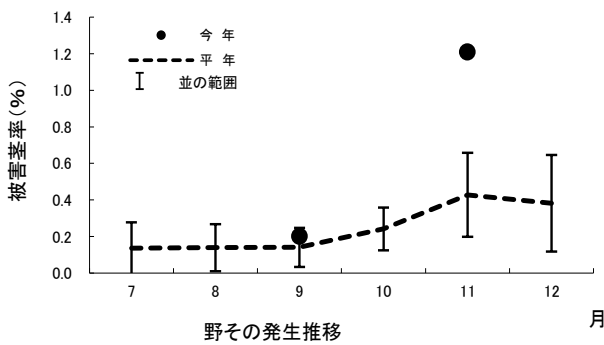
- ・ 調査作型：夏植、調査地域：石垣市
- ・ 芯枯茎率(%)：1.3(前年1.3、平年2.1、判定「やや少」)
- ・ 芯枯茎内幼虫の割合(%)：イネヨトウ69.2%、カンシャシクイハマキ30.8%
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日)：0.8(前年1.9、平年1.8、判定「少」)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類)：中発生(波照間島)、少発生(与那国島)

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間へ散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ 野そ		
11月の発生量（現況）	多		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害茎率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査作型：夏植、調査地域：石垣市
- ・ 被害ほ場率（%）：80.0
- ・ 被害茎率（%）：1.2（前年0.6、平年0.4、判定「多」）
- ・ 防除員による報告：中発生（波照間島）

防除のポイント

- ・ 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。



野そ類による茎の被害